



# 祝福のカンパネラ

- la campanella della benedizione -

## Festa della Oasis

Original Story  
ういんどみるOasis  
Novelization  
ハブレんたろー  
Illustration  
ヤサカニ・アン

# 祝福のカンパネラ

- la campanella della benedizione -

## Festa della Oasis

### Main Character's



### Minette

ミニネット

およそ7年の眠りから目覚めた、人間型のオートマタ（自動人形）。体の構造から精神までどこをとっても人間と変わらない。天真爛漫で好奇心旺盛の元気な天然娘。目覚めて初めて見たレスターを“パパ”と呼び慕っている。クランメンバーだけでなく街の人々からも可愛がられている。



### Carina

カリーナ・ベルリッティ

### Verritti

エルタリアのクラン『Oasis』のオーナーにして、この国の公女。その美貌もあいまって、広く名が知られている。気さくで誰とでも仲良くなれる性格。普段はたおやかな才女の姿勢を崩さないが、ときおりおろおろしている。この世界では使われなくなった技術である魔法を使うことができる。

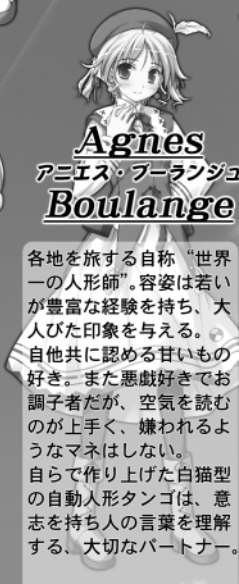


### Chelsea

チェルシー・アーコット

### Arcot

収穫祭で開かれる『アーティファクト展示会』の警備の為にやってきた神殿騎士。剣の腕は確かで、仲間からの信頼も厚い。丁寧で静かな性格だが、ドジなところがあり、方向音痴の為によく街中で迷っている。レスターの母であるシェリーとは、彼女が冒険者として仕事をしていたころからの友人。



### Agnes

アニエス・ブーランジュ

### Boulange

各地を旅する自称“世界一の人形師”。容姿は若いが豊富な経験を持ち、大人びた印象を与える。自他共に認める甘いもの好き。また悪戯好きでお調子者だが、空気を読むのが上手く、嫌われるようなマネはしない。自らで作り上げた白猫型の自動人形タンゴは、意志を持ち人の言葉を理解する、大切なパートナー。



### Nina

ニナ・リンドベルイ

### Lindberg

『Oasis』の事務・家事全般を一手に引き受ける、クランの母親的存在。元々はカリーナの専属メイドとしてベルリッティ家に仕えており、カリーナのことを第一に考えている。リトスなどとも協力した独自の情報網を持つ。以前、とある男性に想いを告げたが……。実は人間離れした酒豪。



**Salsa**

サルサ・トルティア  
**Tortilla**

リトスの双子の姉であり、突っ込み担当。冒険者クラン『Oasis』のライバル『トルティアカンパニー』副社長。明るく元気な性格だが、物事を深く考えるのが苦手。反面アイテムなどの使用に長けている。



**Shelley**

シェリー・メイクラフト  
**Maycraft**

レスターの実の母親。息子を自分好みに育てたと豪語するほどノリノリで破天荒なお母様。レスターの周りに女の子が大勢いることをとても喜んでいる。昔は冒険者であり、チェルシーやファビウスなどとパーティを組んでいた。



**Ritos**

リトス・トルティア  
**Tortilla**

サルサの双子の妹であり、『トルティアカンパニー』のクールな社長。物事を冷静に判断し行動する理論派。無表情で淡々と会話を行うも、ちょっぴり毒舌家。失敗の多い姉のサルサをからかってはこっそり楽しんでいる。



**Miriam**

ミリアム

アバディーンの子の妹でありクランメンバー以外で初めてできたミネットの友人。体が弱く、歩行時には杖を突いて歩いている。儂げな印象にも見えるが、芯の通ったところもある少女。兄とアヴリルのことを、とても大切に思っている。



**Garnet**

ガーネット

とある事件で知り合った精霊の少女。実際はドラゴンの化身。強気で偉そうだが愛嬌があり何故か憎めない。古代の知識を持っている為、意外と博識だが、一部の知識については適当としか思えない言動がある。



**Avril**

アヴリル

アバディーンとミリアムに仕えるオートマタ。二人のことを何よりも大切に考えており、二人を守ることが全てにおいて優先される。その為に、ときに過激な手段を取る事も。魚が好きで、意外と目利きでもある。



本編の主人公。  
冒険者クラン『Oasis』に所属  
する冒険者にしてアイテム技師。  
その技術には定評がある。  
優しく穏やかな性格ながら、芯  
に正義感を持ち、『当たり前』の  
ことを『当たり前』にこなすこ  
とができる。天然女殺し。



Sub Character's

## Leicester Maycraft

レスター・メイクラフト



Aberdeen

アバディーン

アニエスの兄弟子に当たる人形  
師で、ミリアムの実兄。  
揺ぎない信念を持ち、あること  
が原因で『Oasis』と対立して  
いたが、今は和解している。

レスター達が新米だった頃から  
の仲間で、優しく力持ちな皆の  
兄貴分。しかし強面のせいで色  
々と損をしてしまうことも。  
斧大好きな斧マニア。



Nick

ニック

LaJuck

ラジャック



Fabious

ファビウス

Verritti

ベルリッティ

カーリーナの父でエルタリアを治  
める大公閣下。陽気で気さくな  
性格で街の人にも慕われている。  
元冒険者であり、さまざまな仕  
事を街のクランに斡旋している。

レスターの父親で、エルタリア  
大聖堂の責任者。昔はシェリー  
やファビウスなどとともに冒険  
者をしていた快活で豪放な人物。  
愛妻家。



Nagan

ナーガン

Maycraft

メイクラフト



Fiore

フィオーレ

Verritti

ベルリッティ

エルタリアの妃殿下であり、カ  
リーナの母。もの静かで貞淑、  
気品に満ちた振る舞いから、街  
では『エルタリアの至宝』と呼  
ばれている。

ミネットの製作者であり、アニ  
エス、アバディーンの師匠。  
“伝説の人形師”と称されるほ  
どの腕の持ち主で、昔シェリー  
たちとパーティを組んでいた。



Mise

ミセ

Altoise

アルドワース



## プロローグ

窓の外はすでに夜の闇に包まれ、窓からは月の光がわずかに差し込むばかり。

薄暗い部屋の中。

ぼんやりと灯るランプの光に照らされて、睦み合う三人の男女の姿が浮かび上がる。

男はベッドに仰向けに寝転がり、その上にひとりの女がまたがって、男から与えられる刺激を甘受していた。女がもう一人、男の上半身に寄り添うようにその身を預けていた。

いずれも布切れ一つその身にまとっておらず、若々しい裸体をあらわにしていた。

室内にこだまするのは若い女性の喘ぎ声とぬちゅぬちゅという粘着質な響き。それにベッドの揺れる音が重なり合い、淫靡なハーモニーを奏でている。

「ああつ、レスターッ」

ベッドに横になった青年　レスター・メイクラフトの腰の上で、金色の髪を振り乱す美女  
カリナ・ベルリッティの口から嬌声が上がる。

「くあつ!」

ぎゅっぎゅっと肉棒を締め付けられる感触に、レスターの口からも喜悅の声が漏れた。

「やあつ……すこ、奥までっ」

彼女のほっそりとした腰に手をあてて、強く腰を突き上げる。

下から見上げる恋人の裸体。

快感に震え、汗と愛液に身体を濡らしたその姿はえもいわれぬほど美しく、レスターの心を掴んで放さない。

「カリナさん……すごく、いいよ」

レスターがひと突きすることに、メロンを思わせる大きな二つの柔乳が弾む。

その先端には紅く色づいたサクランボがひとつずつ。ピンと実が張っていて、いかにも食べ頃といった雰囲気だ。

「んっ、んふ……んんっ、んっ……ああ、ああ……」

二人の結合部からじゅぶじゅぶと音を立てて愛液が零れ落ちる。

日中は、シワひとつなく丁寧に整えられていたであろう白いシャツが、いまや体液でぐっしょりと濡れ、シワクチャになっていた。

「ふわぁ、パパぁ……」

「……ミネット」

熱に浮かされたようにとろんとしたまなざしを浮かべて、レスターの引き締まった上半身にしなだれかかっていた少女　ミネットが唇に吸い付いてくる。

彼女のたおやかな両腕が首の後ろに回された。

ちゅ。

最初は触れるだけの軽い口づけ。

次いでレスターの唇の周りをなぞるようにミネットの瑞々しい唇が動く。

「……ふう……ん、ぴちゅ……ちゅむ」

彼女が頭を動かすたびに伝わってくる、ぷにゅとした柔らかい感触。

自身をパパと呼び慕う少女から与えられる甘い刺激。

少女特有のミルクのような甘い香りが鼻腔をくすぐり、レスターの興奮を否応なしに高めていく。

「……ん……ちゅぴ……はぁ……」

レスターが舌先でツンツンと彼女の唇をつつくと、ミネットもピンク色の可愛らしい舌をチロチロと出して応える。

「はぁ……うんっ……れろ、ちゅぴ……うむ……れる、ちゅ」

次第にその動作はより大きく、より激しくなっていく。

やがて互いの舌を絡め合う深い口づけへと変化した。

舌を吸い合うことに夢中になっているミネットの股間は、彼女自身から溢れ出した蜜と、つい先ほどレスターが放った悦楽の証によってしとどに濡れていた。



粘性を持った白い液体が太ももを通って、ツーと糸を引くように流れ落ちていく。

「んっ……ちゅ……れろ……」

「ちゅむ……ん、はふ、パパぁ……あつたかいですよ」

言い終えると同時にミネットが再度唇を合わせてくる。

レスターは両手で押さえていたカリーナの腰から左手を外し、ミネットのふわふわの髪を指ですくように撫でた。

熱に惚<sup>ほ</sup>けていたミネットの瞳が細められる。その表情は、声こそ発せられてはいないが「えへへ」と微笑<sup>ほえ</sup>んでいるように見えた。

もちろん、その間もカリーナに快感を与え続けることをやめない。

「いやぁ、はぁ……ああぁん、レスター、そこはっ」

カリーナやミネット、それに他の恋人たちとは幾度となく身体を重ねてきた。それゆえに彼女たちの感じるポイントはしっかりと把握している。

だから、レスターはカリーナの腰の動きにあわせて、的確に弱点をつくことができた。

「あ、あぁん……そ、そこ、気持ちよすぎますのっ。わ、わたくし、ふぁっ……このままじゃダメにっ。ダメになっちゃいます!!」

さらにレスターは恋人の腰に残していた右手を結合部にずらし、指先で優しく触れる。カリーナはびくりと身体を震わせ、一段と高く声を響き渡らせた。

「あつ、やあ……ふうつ……はあ、んう、ああ……っ!」

娘であり恋人である少女から唇を離し、レスターは愉悦ゆえつの海に溺れおぼつつあるもうひとりの恋人に語りかける。

「……っはあ……ダメになってもいいんだよ。もつと、気持ちよくなって……」

その声は優しさと愛情、それとほんのちょっぴりの「もつと乱れるカリーナの姿を見たい」という意地悪いじわるな気持ちから構成されていた。

続けて、差し出されたミネットの舌先を唇であまがみする。

「ふう……ちゅむ、ぺろ……んちゅ……ちゅっ」

ミネットの舌と唇の感触を楽しみながら、レスターは腰を小刻みに揺らし、さらなる刺激をカリーナへと与えた。

「あつ、んん……ああつ、あ……ああつ……!」

絶頂が間近に迫っているのだろう。彼女の膻壁たんぺきの脈動が激しくなり、レスターの男性自身がきつく締め付けられた。

同時に灼熱しゃくねつの衝動が下腹部に集まる。

唇と男根。上下から加えられる快楽にレスターもまた限界が近づいていた。

「あつ、や、ああつ! んっ、レスターっ、も、もっつ! ん、ああつ、や、ああつ……!」  
息も絶えだえに限界を告げるカリーナ。

ほどなくしてその瞬間が訪れる。

「あつ、あああああああああああつ!!」

高らかな叫びとともに、カーリーナがその肢体を大きく反り返らせた。

時同じくして、レスターはミネットの唇を強く強く吸い上げながら、熱い迸り（とばし）をカーリーナの膣内に放った。

びるっ！ どくっ、どくっ、どくっ……どく……どく……とくん……。

濃密なひとときが過ぎ。

「……とても、いっぱい出してくださったんですね」

最愛の男性の右腕に頭を預けたカーリーナが幸せそうに、ほうっと思を吐く。

「ふやあ……」

一方、左腕にはどこかぽっとした様子のミネットが身を寄せていた。ぐりぐりと頭を押し付けるように動かして、ふわふわとした髪感触が何ともこそばゆい。

そのさまは子猫がじゃれつくようで、とても愛らしかった。

「二人がすごく素敵だったからね」

あまり機会のない、三人で身体を重ねるという行為。

そのシチュエーション自体も強い刺激になったようで、レスター自身、何度二人に放ったか憶えていない。おぼ

レスターの言葉にカーリーナたちは頬を染め、嬉しそうに微笑んだ。

「あの、パパ」

ミネットが見上げるようにして、レスターの顔を見つめる。

「明日はミスター・エルタリアコンテストがあるですよ」

「ああ、そうだね」

彼女の言うとおり、明日は収穫祭初日にして、ミスター・エルタリアコンテストの開催日でもあった。

紆余曲折うよきよくせつ

というほど大した話ではないのだが

あつてレスターもこのイベントに参加する

ることになっている。

「応援に行きますから頑張ってくださいね。それで優勝して私と……」

カーリーナが期待に満ちたまなざしを向けてきた。きつとミスター・コンテストとミス・コンテスト、それぞれの優勝者に贈られる商品と、その後に参加が義務付けられているイベントに思いをはせているのだらう。レスターには彼女の瞳がキラキラと輝いているように見えた。

両コンテストの優勝者は、協賛の商會が計画しているブライダルプランのモニターを、ペアで務めることになっている。すなわち、コンテストの優勝者同士で疑似結婚式を挙げるということだ。「ん、どうなるかわからないけど……」

レスターは苦笑を浮かべつつも二人に、そしてこの場にいない恋人たちに誓った。「最善を尽くすよ」と。

ついに明日から収穫祭が始まる。

冒険者クラン『Oasis』の仲間たちと出店するオープンカフェ。エルタリア大公ファビウス・ベルリッティの肝いりで参加することになったミスター・エルタリア、ミス・エルタリアコンテストなど、例年以上に楽しいイベントが待っている。

さあ、年に一度のお祭りFestivalの開幕だ！

収穫祭直前 ミス&ミスター・エルタリアコンテスト特集

優勝の栄冠は誰の手に!? ニつのコンテストの優勝者を大予想!



◀▲ 優勝候補のレスター・メイクラフトさん  
クランメンバーと(本誌独占入手)

エルタリアーの美男美女を決定する『ミス・エルタリアコンテスト』『ミスター・エルタリアコンテスト』の記念すべき第一回目が今年の収穫祭で開催されることは既報の通り。さて、初日に開催されるミスター・コンテストの注目株はというとレスター・メイクラフト氏の名前が挙げられる。以前より腕利きのアイテム技師、冒険者として活動しており、知名度は参加者の中でもダントツだ。他に対抗馬と見られているのが……

〈中略〉

誰が優勝するにせよ。本年度の収穫祭は例年以上の盛り上がりを見せることは想像に難くない。読者の皆様には、ぜひともコンテストの行く末を会場で確認していただきたい。

(エルタリアウィークリー・収穫祭特集より)

優勝、  
レスター・メイクラフト!!

キヤアアアアアアアア!!

優勝者の宣言に沸き起こる歓声の嵐。

中央広場に設置された特設ステージ上でぽかんと佇む<sup>たたず</sup>レスターをそのままに、コンテストの司会を務めるシェリーはマイクを握りなおした。

「いやー、かなり白熱したコンテストだったわね」

「そうじゃのう。特に『花嫁をお姫さま抱っこして50メートル走』なぞは見ものじゃったな」

同じく司会のガーネットも話をあわせる。

二人が使用しているマイクはこのコンテストの主催者であるエルタリア大公、ファビウス・ベルリッティの依頼によりレスターが作ったもの。当然、エールを利用したマジックアイテムの一種で、単体で音量の増幅が出来るスグレモノだ。

マイクの効果で増幅されたトークを聞きながら、レスターは戸惑いの表情を浮かべている。

「いや、展開が早すぎる気が……」

例えるなら、推理小説で最初のページをめくったらいきなり犯人が現行犯で捕まって、一話終了と書いてあるような。そんななんとも言いがたい感覚をレスターは味わっていた。

「あら、気のせいよ気のせい」

愛息子の疑問を、<sup>まなむすこ</sup>シェリーは手をヒラヒラと振りながらサラリと流す。



「そうそう。気のせいじゃよ。気のせい。それにのう」

相づちを打っていたガーネットが不意に言葉を切つてにやりと笑った。視線は会場ではなく虚空に向いている。

「男の姿よりも、エルタリアが誇る綺麗な華々を早く見たい輩のほづが多いじゃろ？」

そうだ、そうだ！

ガーネットの台詞にどこからとなく届く野太い歓声が答える。

「本当にいいのかな？」

ポツリと漏れた呟きにはどこか疲れたような響きが混じっていた。

こうして、レスターがひとり頭を悩ませるなか、第一回ミスター・エルタリアコンテストは彼の優勝で幕を閉じるのであった。